

シンポジウム

日本と諸外国の寮調査

— 混住寮とレジデンシャル・カレッジを対象として —

日本国際教育学会 第29回研究大会

明治大学大学院 国際日本学研究科
吉田千春

大学教育の質的転換

◆社会の変化、国際化への対応から、国内外の大学において、
教育の質的転換が求められている。

※教授者中心⇒学習者中心へ

※「学力」⇒「コンピテンス」、「リテラシー」などの「新しい能力」の育成



- ・アクティブラーニングなどを取り入れた授業改革
- ・図書館の改革やラーニングコモンズなどの学習の場作り
- ・教育の場としての寮

教養教育を担う寮の伝統(海外)

独自の教育プログラム
を提供する大学の寮

レジデンシャル・カレッジ
(Residential College, 以下RC)

教養教育に焦点を当てた
学びを育む

リビング・ラーニングコミュニティ

寮生活と大学のカリキュラムを
関連付けて学びを育む

近年の教育的意義のある大学寮の
最も古い例



近年、アジアのトップ大学で増加

留学生の居住空間確保から生まれた混住寮(日本)

<混住寮の増加の背景>

- 留学生の受け入れの拡大(10万人計画、30万人計画など)
- 留学する日本人学生の減少
- グローバル人材育成

※特に日本ではグローバル人材育成の場、「寮内留学」などとして
日本人学生と留学生が共に住む大学の寮が注目されている。(牧田, 2013)

※2014年のスーパーグローバル大学創成支援事業(以下, SGU)で「混
住型学生宿舎の有無」が採用基準に挙げられたことで、増加傾向にある。

教育の場としての日本の混住寮

居住のための寮



教育を目的とした
混住寮へ

⇒寮の学びや教育に焦点をあてた研究はまだ少ない。

⇒寮を大学教育の「学びの場」と捉え、学びが促されるような意図的な
教育的介入や学習環境デザインを行うことが重要

研究テーマ：「多文化環境で育まれる学び—混住寮をフィールドとして—」

多文化環境における寮生の学びと成長のプロセスを明らかにし、学びと成長を促進する混住寮の学習環境デザインの要件を提案すること

正統的辺参加論 (Lave&Wenger, 1993)

教育の場としての
混住寮の特徴・課題
(研究課題①)

海外の事例

国内の事例

成功事例

①海外の教育寮: 事例
(Residential college)

②国内の混住寮: 7事例

⇒寮生の学び・成長の場

寮生の学びと成長の
プロセス
(研究課題②)

多文化の学びを促す
学習環境デザイン
(研究課題③)

本発表の目的

混住寮の教育的機能を検討するために、
日本の混住寮とアジアのレジデンシャル・
カレッジの学習環境デザインの特徴を整理する。

研究の対象と方法

1. 日本の先導的な混住寮：7事例

※SGUの構想調書をもとに選出

- ①フィールド調査 ②担当者へのヒアリング調査
(2013年～2017年)

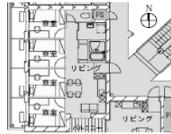
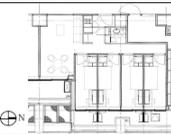
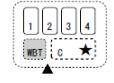
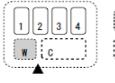
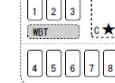
日本の混住寮の事例： 調査概要

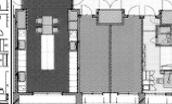
調査を実施した日本の混住型学生宿舎の一覧

大学名	寮の名称	訪問日	ヒアリングの有無／ヒアリング時間
九州大学	①ドミトリー3 ②伊都協奏館	2014年9月	無
早稲田大学	国際学生寮WISH	2015年5月、2016年	有／約30分
金沢大学	先魁	2015年2月	有／約60分
国際教養大学	①こまち寮 ②さくらヴァレッジ	2015年2月、3月	有／約60分
国際基督教大学	①グローバルハウス ②樺寮	2015年7月、8月	有／約60分
芝浦工業大学	国際学生寮	2013年9月	有／約30分
立命館アジア太平洋大学	①APハウスⅠ ②APハウスⅡ	2014年9月、2017年	有／約60分

日本の事例：混住寮の概要

日本の混住寮 7校

大学名	1. 九州大学	2. 早稲田大学	3. 金沢大学
寮の名称 (下線は住戸の分析事例)	①ドミトリー3 ②伊都協奏館	国際学生寮 WISH	先魁
訪問日／ヒアリングの有無(時間)	2014年9月／無	2015年9月／有(約30分)	2015年2月／有(約60分)
設置年	①2014年、②2014年	2014年	2012年
事業主体	大学直営	大学直営	民間活用／BTO方式サービス購入型
所在地	福岡県福岡市	東京都中野区	石川県金沢市
場所	①キャンパス隣接、②キャンパス隣接	キャンパス外	キャンパス内
構造	①鉄筋コンクリート造 5階建 ②鉄筋コンクリート造 9階建	鉄筋コンクリート造 11階建 一部鉄骨造・免震構造	軽量鉄骨造 2階建(住居棟) 鉄骨造 1階建(共用棟)
住戸タイプ	①ユニット(4人) ②個室/ルームシェア(2人)/家族室	ユニット(4人)	ユニット(8人)
部屋面積	①個室7㎡+共用LDK 28㎡ ②個室17㎡、シェア(2人) 41㎡	個室8.6㎡+共用ラウンジ等 32㎡	個室8.5㎡+共用LDK 15㎡
最大取容人数	①136人、②601人	872人(257室)	104人(13ユニット)
平面プラン (事例7は、シェア棟を図化・分析した)			
集合形式 凡例 D: 寝室ユニット 水回り T: トイレ W: 洗面 B: 浴室 C: 共用部 ★: 共用キッチン ▲: エントランス			
集合形式の階層性	ユニット／寮全体(2層)	ユニット／ウィング階／寮全体(3層)	ユニット／寮全体(2層)

4. 国際教養大学	5. 国際基督教大学	6. 芝浦工業大学	7. 立命館アジア太平洋大学
① こまち寮 ② きくらヴォレージ	① グローバルハウス ② 聴覚室	国際学生寮	① APハウスⅠ ② APハウスⅡ (シェア棟を含む)
2015年2月/有 (約60分)	2015年7月/有 (約60分)	2013年9月/有 (約30分)	2014年9月/有 (約60分)
① 2004年、② 2013年	① 2001年、② 2010年	2013年	① 1999年、② 2000年
大学直営	大学直営	大学直営	大学直営
秋田県秋田市	東京都三鷹市	埼玉県さいたま市	大分県別府市
キャンパス内	キャンパス内	キャンパス隣接	キャンパス隣接
① 鉄筋コンクリート造4階建 ② 木造2階建	① 鉄筋コンクリート造4階建 ② 鉄筋コンクリート造3階建	鉄筋コンクリート造5階建	鉄筋コンクリート造5階建
① ルームシェア (2人) ② ユニット (3人)	① ユニット (4人) ② ルームシェア (2人)	個室 (1階に研究者用家族ユニット)	① 個室 ② 個室/ルームシェア (2人)
① 個室 14㎡ + 共用木回り ② 個室 8.8㎡ + 共用LDK 29.1㎡	① 個室 12㎡ + 共用 ② 個室 25㎡	個室 17㎡	個室タイプ 13㎡ ルームシェアタイプ 26㎡
① 184人、② 107人	① 68人、② 126人	120人	① 425人、② 個室477人+シェア378人
			
			
ユニット/寮全体 (2階)	ユニット/ポッド/階/寮全体 (4階)	個室/階/寮全体 (3階)	ユニット/ウィング階/寮全体 (3階)

研究の対象と方法

2. アジアの先導的なレジデンシャルカレッジ: 5事例

※2010年以降に新設されたもの

- ①フィールド調査 ②担当者へのヒアリング調査
(2015年～2017年)

アジアのRCの事例： RCの概要

調査を実施した海外のResidential Collegeの概要

大学名	寮の名称	①設置年 ②居住人数	その他
延世大学 (韓国)	Songdo Dormitory (仁川)	①2013年 ②約6000人	・1年生は全員入寮が義務づけられている。 ・ドミトリー1と2に分かれ、12のハウスからなる ・キャンパス内に設置。
シンガポール国立大学 (シンガポール)	Tembusu College	①2011年 ②約600人	・大学所有の4つのResidential Collegeの1つ。 ・キャンパス内のUniversity townに設置。
香港中文大学 (香港)	S.H.Ho Colleg	①2012年 ②約300人	・大学所有の9つのResidential Collegeの1つ。 ・キャンパス内に設置。
香港大学 (香港)	JOCKY CLUB STUDENT VILLAGE III	①2015年 ②約1800人	・約34か国の学生が居住。 ・学外に設置。 ・4つのCollegeからなる
マカオ大学 (マカオ)	Lui Che Woo College	①2014年 ②約450人	・1年生は原則入寮が義務づけられている。 ・キャンパス内に設置 ・学内に10あるResidential collegeの1つ。

レジデンシャル・カレッジと混住寮の 学習環境デザインの特徴

	日本の混住寮	アジアのレジデンシャルカレッジ
背景・目的	国際教育、異文化間教育、グローバル人材の育成など	教養教育、全人教育など
居住者の多様性	・学部生、留学生、(大学院生、管理人) など ※国籍、文化の違いを重視した多様性	教員(家族)、大学院生、学部生、(留学生、職員)など ※年齢、キャリア、国籍などを含めた多様性

⇒ハード的な側面：空間のデザイン

⇒ソフト的な側面：活動のデザイン

空間

【空間】日本の事例： 居室の特徴

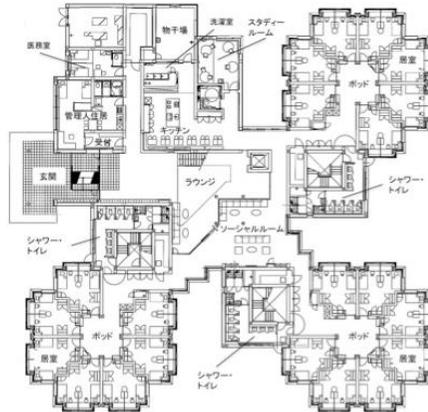
◆ユニットが増加傾向



寮	設置年	居室
①九州大学 (ドミトリ-3)	2014年	4人ユニット
②早稲田大学(国際学生寮WISH)	2014年	4人ユニット
③金沢大学(先魁)	2012年	8人ユニット
④国際教養大学 (こまち寮) (さくらヴィレッジ)	2004年	ルームシェア(2人)
	2013年	3人ユニット
⑤国際基督教大学(グローバルハウス) (樺寮)	2001年	4人ユニット
	2010年	ルームシェア(2人)
⑥芝浦工業大学	2013年	個室
⑦立命館アジア太平洋大学(APハウス)	2000年	個室
		ルームシェア(2人)

【空間】日本の事例： コミュニティを作る工夫

国際基督教大学(樺寮)



※「ボッド」と呼ばれる
フロアデザイン

混住寮の空間的な特徴

- 居室タイプ(個室、ルームシェア、ユニットタイプ)、フロア的设计などに多様性が見られる。
- 人間関係構築を促すデザインされている。
- キッチンを中心に、小さいまとまり⇒大きなまとまりへとコミュニティを作るようなデザインになっている。

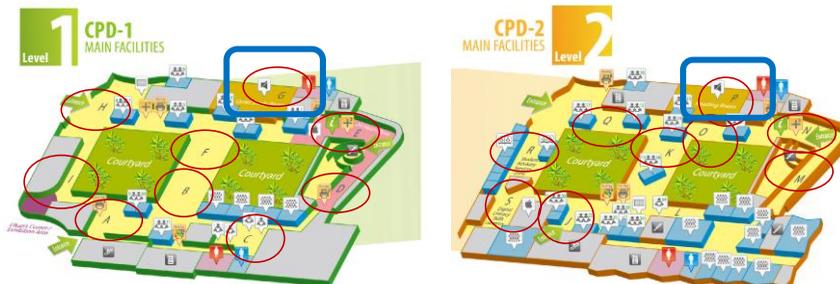
RCの空間的特徴

- 規模が大きく、共有スペース、施設が充実している。
- 居心地が良さそう、集まりたいと思うスペースが用意されている。
- 目的、活動、気分に合わせて場を選択できる。

⇒ラーニング・コモنزの要素

香港大学 Chi Wah Learning Commons 智華館

- * The Learning Commons in the Centennial Campus will become a campus hub for student-centered learning



<http://www.les.hku.hk/teaching-learning/learning-space/chi-wah-learning-commons>

活動

【活動】混住寮の事例

◆RA、寮担当の職員を中心に、様々な活動が行われている

ルールの共有のため

例：フロア会議
清掃活動
など

交流促進のため

例：歓迎会
交流イベント
など

学習のため

例：学習プログラム
スタディツアーなど



例：早稲田大学SI(Social Intelligence)プログラム
週に1回の参加が義務

【活動】アジアのRCの事例

カレッジのマスターや教職員、アカデミックスタッフなどデザインする活動

例) フォーラム、講演会、High Table dinner、Master's Teas
海外へのボランティア活動、協働学習を促進するプログラムなど

学生組織がデザインする活動

例) 関心のあるアカデミックなテーマについての活動、
スポーツ、映画、音楽イベントなど

レジデントアシスタント(学生)がデザインする活動

例) フロアやハウスの交流を促す活動

※カレッジマスター/ハウスマスターである教員がトップとなり、理念やプログラムを作り、運営している。各カレッジは独自のプログラムを持ち、カレッジごとにアイデンティティを形成している。例) [Tembusu college](#)

レジデンシャル・カレッジと混住寮の 学習環境デザインの特徴

	日本の混住寮	アジアのレジデンシャルカレッジ
背景・目的	国際教育、異文化間教育、グローバル人材の育成など	教養教育、全人教育など
居住者の多様性	・学部生、留学生、大学院生、管理人など ※国籍、文化の違いを重視した多様性	教員(家族)、大学院生、学部生、留学生など ※年齢、キャリア、国籍などを含めた多様性
空間的特徴	・居室タイプ(個室、ルームシェア、ユニットタイプ)、フロア的设计に多様性が見られるが、ユニット型が主流。 ・小さいままとまりから、大きなままとまりへ人間関係の構築を促すデザインされている。 ・全員が入れる食堂は少なく、自炊のキッチン。	・規模が大きく、居心地の良さそうな共有スペース、施設が充実している。 ・目的、活動、気分に合わせて場を選択できる。
活動の特徴	・主にRAとなる学生、職員が中心となり、活動をデザインしている。 ・寮生同士の交流を促す活動が中心	レジデントマスターとなる教員が中心となって運営をしており、寮に関わる教員から学生スタッフまで、様々なレベルで異なるタイプの活動をデザインしている (寮生全員を対象としたアカデミック、交流促進、生活の向上など多様な活動)

アジアのレジデンシャルカレッジからの示唆

※教育を目的とするならば、アジアのRCの事例から学べるものが多い。

教育としての位置づけ・理念

- ①空間(出会いの場、交流の場の工夫
ラーニングコモンズ的な機能)
- ②活動(交流、寮内の活動、学内との連携、学外との連携、
教育的仕掛けや演出、誰が活動をデザインするか)
- ③制度(居住者、教員の関わり、教職協働、RAの制度など、
単位)

参考文献など

* この研究は住総研の助成を受けて行われていた「多文化の学びを育む混住型学生宿舎の研究」(吉田千春、田中友章、横田雅弘)の一部です。

【参考文献】

ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウエンガー(1993)『状況に埋め込まれた学習』佐伯胖訳 産業図書

牧田綾子(2013)「グローバル人材育成の場としての『国際寮』」,『カレッジマネジメント』183号